

ナウマンゾウと人 かかわりを解明へ

わられる道具の化石と非常に近い場所から化石が出てくるといつたことも証拠になる

全国でも珍しい一般参加方式の利点は。

「参加者が自主的にお金と

時間を使って楽しみながら発掘をしている。発掘にお金を掛けられない調査団の事情とうまく合った仕組みだ」

信濃町で二十三日が始まりた第十七次野尻湖発掘調査。前回は、オオツノジカの切歯が見つかるなど、一帯がキルサイト（狩猟解体場）だったとする仮説の立証に一步前進した。今回の展望を、団長の赤羽貞幸・信大教育学部教授（61）に聞いた。

【調査の目的は】
「河期時代のナウマンゾウと人間のかかわりを解き明かすこと。当時の人々がナウマンゾウを実際に狩っていたことを示す物証を見つけ、キルサイト

だつたことを立証したい」
「何が物証になるのか。
「ナウマンゾウの化石に、やりなどの道具を使つた跡が見つかるのがベスト。狩りや動物を殺すために使つたと思

力は。
「職業、年齢、住まい、さまざまな立場の人が湖畔に足を運び、交流も芽生えている。解き明かされていない謎もたくさんある。四万年前の世界に直接触れ、当時の状況がだんだん分かつてくるのは歴史好きにはたまらない。いくらい

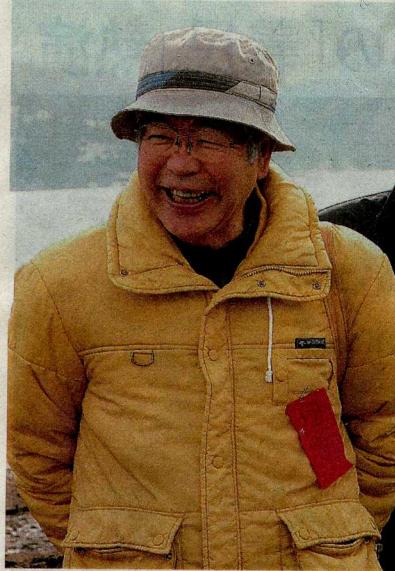
やつても掘り足りないくらいだ」
「どんな調査にしたいか。
「楽しい十日間にしたい。
個人としては、どんな化石が出てくるのかといったことに一番興味がある。子どもたちもたくさん参加する予定なの

団長の赤羽貞幸・
信大教育学部教授

上水内郡信濃町の野尻湖・立が鼻遺跡で二十三日、第十七次野尻湖発掘調査が始まる



全国から大勢の人が参加し、2年ぶりに始まった第17次野尻湖発掘調査＝信濃町の野尻湖・立が鼻遺跡



立が鼻遺跡で二十三日、第十七次野尻湖発掘調査が始まる

七次野尻湖発掘調査が始まつた。二〇〇六年三一四月の前回に続き、四万年以上前の地層を掘り起こして一帯がキルサイト（狩猟解体場）だった痕跡を探る。

【関連記事北信面に】

調査団長の赤羽貞幸・信大教授や町関係者らが「くわい式」をして調査の成功と安全を祈願。参加者は五班に分かれ、四面四方に掘つた溝でそれを作業した。移植ごてや竹べらで土を取り除くと、哺乳類の骨片や針葉樹の実の破片とみられる化石などが出土した。

調査団顧問で信大名譽教授の酒井潤一さん（71）は「石器が刺さった動物の骨などが見

つければ、狩りの証拠として決定的になる」と期待。初めて調査に参加する下高井郡山ノ内町の小学三年生 小野沢平君（9）は「『野尻湖人』が何を食べていたか分かるような発見をしたい」と話していた。調査は三十一日まで行い、全国の計二百六十人余が参加する。三十日午後六時四十五分からは信濃町公民館野尻湖支館で成果報告会を開く。